

目次	Corporate direction	環境	社会性	ガバナンス	データ集・索引				
社会性に関する方針・考え方	人権	交通安全	ダイバーシティ & インクルージョン	製品安全 および品質	サプライチェーン マネジメント	人財育成	労働慣行	従業員の健康と安全	地域社会への貢献

# 交通安全

## 交通安全の方針・考え方

クルマが広く普及したことで私たちの暮らしは大きく変わり、多くの人々がモビリティによる自由や利便性、そして運転する楽しさを楽しんできました。近年の自動車業界の技術革新はめざましく、自動運転やそれを構成する運転支援技術は急速に進歩しつつあります。高齢化、高度な都市化の進行など、世界は大きな転換期を迎えています。クルマの技術革新は、都市における渋滞の解消や高齢者が安全で円滑に移動できる社会の実現など、さまざまな課題の解決に貢献することが期待されています。

日産は“走る楽しさと豊かさ”を体現するクルマづくりに取り組むとともに、リアルワールド(現実の世の中)における高い安全性を提供します。

交通事故の原因の9割以上が人為的ミスといわれる中、日産は日産車がかかわる交通事故の死者数を実質ゼロにする「ゼロ・フェイタリティ」実現に向け、事故そのものを減らすための取り組みを進めます。

## 交通安全のマネジメント

2021年日本の交通事故による死者数は2,636人と2020年より203人減少しましたが、なおも2,000人以上が交通事故で亡くなっています。また世界保健機関(WHO : World Health Organization)は、世界全体で毎年約135万人が交通事故で命を落としており、今後緊急に対策をとらなければ2030年までには死亡原因の7位になると予測しています。

日産は、事故そのものを減らすために、緊急回避性能を飛躍的に向上させる次世代LiDARを活用した技術開発を進めています。また、衝突時の被害軽減・乗員保護のための技術の向上と車両への搭載を推進します。

さらに、クルマの技術開発のみならず、安全運転など交通安全啓発活動を実施していきます。

目次	Corporate direction	環境	社会性	ガバナンス	データ集・索引				
社会性に関する方針・考え方	人権	交通安全	ダイバーシティ & インクルージョン	製品安全 および品質	サプライチェーン マネジメント	人財育成	労働慣行	従業員の健康と安全	地域社会への貢献

## 交通安全への取り組み

### 日産の安全技術の拡充と獲得した外部評価

「インテリジェント エマージェンシーブレーキ」は、日本で発売している電気自動車、商用車を含むほぼすべてのカテゴリで搭載を完了するとともに、主要車種への標準装備も完了しました。北米や欧州でも主要車種に採用しています。

また、各地域で行われている公的機関および政府による試験において、高い安全評価を獲得しています。特に日本では、JNCAP (Japan New Car Assessment Program) が2020年度より新たに「自動車安全性能」として、衝突安全性能評価と予防安全性能評価および事故自動緊急通報装置の3つによる総合評価を開始、総合評価最高の5★を獲得するには、それぞれの評価で最高ランク(事故自動緊急通報装置は装備要件)の獲得が必要となりました。2021年度の「自動車安全性能2021」では、2020年度の「日産デイズ」に続き、「日産ルークス」、「ノート/ノート オーラ」、「日産キックス」においても最高の5★を獲得。トータルな安全性の高さが実証されました。また2018年度より開始された国土交通省による先進安全技術の性能認定制度においても、2020年度から認定の対象となる装置が拡充され、2021年度までに「インテリジェント エマージェンシーブレーキ」「ペダル踏み間違い急発進抑制装置」を装備した10車種(「日産デイズ」「日産ルークス」「ノート」「セレナ」「日産リーフ」「マーチ」「クリッパー」系「エルグランド」)・29型式が認定を受けました。

### 主な外部安全評価結果(2021年評価分)

地域	外部評価	車種	レーティング
日本	JNCAP*1 「自動車安全性能2021」	「日産ルークス」	総合5★(最高評価)
		「ノート/ノート オーラ」	総合5★(最高評価)
		「日産キックス」	総合5★(最高評価)
米国	NCAP*2	「日産リーフ」「リーフプラス」「ムラーノ」「アルティマ」「マキシマ」「セントラ」「ヴァーサ」「インフィニティ」「QX50」	総合5★ (2022モデルイヤー)
		「タイタン(クルーキャブ)」「ローグ」「日産キックス」	総合4★ (2022モデルイヤー)
	IIHS*3	「マキシマ」「アルティマ」「ローグ」「ムラーノ」	2022 Top Safety Pick+
		「セントラ」	2022 Top Safety Pick
欧州	Euro NCAP	「キャシュカイ」	5★

\*1 JNCAP: Japan New Car Assessment Program の略。国土交通省と独立行政法人自動車事故対策機構(NASVA)による自動車アセスメントプログラム

\*2 NCAP: New Car Assessment Program の略。米国運輸省道路交通安全局(NHTSA: National Highway Traffic Safety Administration)の新車アセスメントプログラム

\*3 IIHS: Insurance Institute for Highway Safety の略。米国道路安全保険協会

目次	Corporate direction	環境	社会性	ガバナンス	データ集・索引				
社会性に関する方針・考え方	人権	交通安全	ダイバーシティ & インクルージョン	製品安全 および品質	サプライチェーン マネジメント	人財育成	労働慣行	従業員の健康と安全	地域社会への貢献

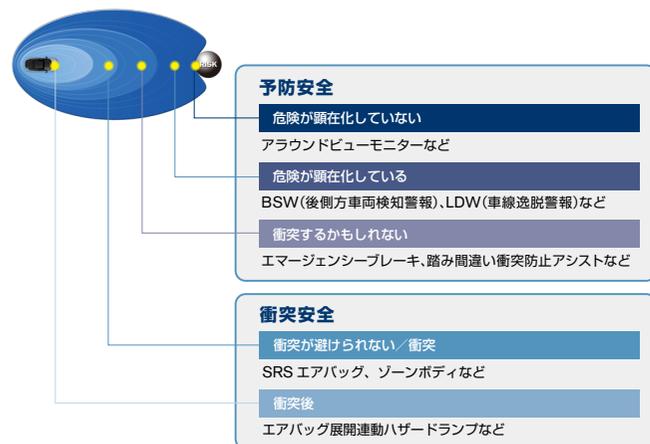
## “ぶつからないクルマ”の実現に向けて

日産は、「セーフティ・シールド」のコンセプトのもと、危険予防から危険回避、そして乗員保護までのトータルな観点で、それぞれのシーンで乗員の安全をサポートします。

例えば、通常走行時や駐車時には、ドライバーが視認しにくい周囲の車両や歩行者などをセンサーやカメラがモニターし、いつでも安心して運転できるようにドライバーをサポートします。

日産は、安全技術を広く迅速に普及させていくことも自動車メーカーとしての使命だと考えています。

### セーフティ・シールド



個々の技術についての詳細はこちらより、ご参照ください。

日産の安全への取り組み

[https://www.nissan-global.com/JP/INNOVATION/TECHNOLOGY/ARCHIVE/SAFETY\\_TDC/](https://www.nissan-global.com/JP/INNOVATION/TECHNOLOGY/ARCHIVE/SAFETY_TDC/)

## 運転支援技術：プロパイロットの普及拡大

2016年より製品化した「プロパイロット」は、2019年9月には、新型「スカイライン」のハイブリッド車に世界初の先進運転支援技術「プロパイロット2.0」を標準装備として搭載しました。2019-2020日本カー・オブ・ザ・イヤーにおいてイノベーション部門賞、RJC カー オブ ザ イヤーにおいてRJC テクノロジー オブ ザ イヤーを受賞するなど高い評価を得ています。

日産は「プロパイロット」の採用をグローバルに、かつ幅広い車種へ広げており、搭載車の販売台数は2022年3月末までに累計163万台を突破しました。

### プロパイロット搭載車種

※2022年3月末時点



目次	Corporate direction	環境	社会性	ガバナンス	データ集・索引				
社会性に関する方針・考え方	人権	交通安全	ダイバーシティ & インクルージョン	製品安全 および品質	サプライチェーン マネジメント	人財育成	労働慣行	従業員の健康と安全	地域社会への貢献

## 緊急回避性能の飛躍的な向上につながる運転支援技術

日産は、将来の自動運転の時代において、お客さまに安心してクルマを使っただけのためには、世の中で起こる多次元に複雑な事故を回避するための運転支援技術が必須であると考えており、クルマの緊急回避性能の飛躍的な向上につながる運転支援技術、グラウンド・トゥルース・パーセプション (Ground truth perception) 技術を発表しました。本技術の開発を2020年代半ばまでに完了させ、順次、新型車へ搭載し、2030年までにほぼすべての新型車に搭載することを目指しています。

## 先進事故自動通報システムSOSコール(ヘルプネット)を設定

交通事故や急病などの緊急時、事故の危険があるとき、あおり運転時などに、専門のオペレーターへのデータ通信と音声通話を行うことができる先進事故自動通報システム「SOSコール」(ヘルプネット)を軽自動車では初めて「日産デイズ」に設定し、順次採用車種を拡大しています。交通事故などで、エアバッグが作動した際に自動的に通報するものと、SOSコールスイッチによる手動通報の2種類があり、通報後は、専門のオペレーターが車両から得た情報をもとに、消防指令センターや警察に迅速に連絡し、緊急車両の手配などドライバーのサポートを行います。

## NASAの技術を活用した自動運転の人工知能(AI)技術を開発

一般道路での完全自動運転実現に向けた課題解決のため、日産では「シームレス・オートノマス・モビリティ (SAM: Seamless Autonomous Mobility)」と呼ばれるシステムを開発しています。自動運転車による判断が困難な場合に管理者が遠隔操作でルートを作成・指示することで、事故、路上の障害など不測の事態に直面した際でも、クルマを安全に誘導できる手段を提供します。

## 交通安全啓発活動の推進

日産は交通安全活動「ハローセーフティキャンペーン」\*1の一環として、1日のうちで交通事故発生件数が最も多くなる時間帯が16～18時の夕暮れ時ということから、ヘッドライトの早期点灯をドライバーに促す「おもいやりライト運動」\*2に2010年から参画。市民活動を活用した双方向のコミュニケーションによる安全啓発活動を推進しています。

また、運動機能工学を専門とし地域を巻き込み交通安全を推進している、新潟大学の研究室と連携して、2018年に交通安全プロジェクト\*3を立ち上げました。その成果として、2020年3月には高齢ドライバーの安全走行を促進・啓発する「ハンドルぐるぐる体操」\*4を開発しました。そして、2021年3月に新潟大学、北里大学、相模女子大学と共同で、ネットワーク上にバーチャル研究所「交通安全未来創造ラボ」\*5を創設しました。高齢ドライバー、幼児・児童、公共交通機関が不足し過疎化に悩む人々、訪日外国人など、生活や移動に不安や不自

目次	Corporate direction	環境	社会性	ガバナンス	データ集・索引				
社会性に関する方針・考え方	人権	交通安全	ダイバーシティ & インクルージョン	製品安全 および品質	サプライチェーン マネジメント	人財育成	労働慣行	従業員の健康と安全	地域社会への貢献

由を抱えている一人ひとりに寄り添い、交通死亡事故ゼロの交通社会を実現することを目的としています。

- \*1 「ハローセーフティキャンペーン」に関する詳細はこちらをご覧ください  
<https://www.nissan-global.com/JP/SUSTAINABILITY/SOCIAL/SAFETY/HELLOSAFETY/>
- \*2 「おもいやりライト運動」に関する詳細はこちらをご覧ください  
<https://www.omoiyari-light.com/>
- \*3 交通安全プロジェクト トリトン・セーフティ・イニシアティブ-まち・生活・交通の安全な未来へ-ToLiTon (Town, Life and Transportation) Safety Initiative  
 従来の交通安全の枠にとどまらず、「まち・生活・交通」を結び提案を目指すことから命名したプロジェクトです。
- \*4 高齢者交通安全「ハンドルぐるぐる体操」に関する詳細はこちらをご覧ください  
<https://www.nissan-global.com/JP/SUSTAINABILITY/SOCIAL/SAFETY/HELLOSAFETY/TAISOU/>
- \*5 「交通安全未来創造ラボ」に関する詳細はこちらをご覧ください  
[https://www.nissan-global.com/JP/SUSTAINABILITY/SOCIAL/SAFETY/HELLOS\\_AFETY/LAB/](https://www.nissan-global.com/JP/SUSTAINABILITY/SOCIAL/SAFETY/HELLOS_AFETY/LAB/)

## 「おもいやりライト運動」

11月10日「いい点灯の日」の前後に、全国 北海道から鹿児島まで16地域にて主体的に点灯呼びかけアクションを行いたいと声を上げていただいた皆さまをサポートしました。また、オンラインフォーラム「TRY-LIGHT ONLINE フォーラム」を12月に開催しました。今年は「女性がクリエイトし、女性がリードする交通安全」をテーマに、ジャーナリストや全国の参加者で呼びかける側、ドライバー側からさまざまなアイデアを出し合いました。この内容はリアルタイム配信し、視聴者からも



主体的に点灯呼びかけアクションを全国で実施

運動に賛同するコメントをいただくことができ、参加者同士のつながりが促進され、より一層活動を盛り上げることができました。

日産グローバル本社ギャラリーでは、年間を通して、ミスフェアレディが点灯呼びかけアクションに使うボードを掲げ「おもいやりライト運動」のプレゼンテーションを毎日夕暮れ時に実施しています。こうした活動を通じて、企業やNPO、クルマファンなどに理解と実行を促してきた結果、「おもいやりライト運動」は市民の間に着実に浸透しつつあります。



「TRY-LIGHT ONLINE フォーラム」

## 「交通安全未来創造ラボ」

本ラボでは、大きな社会問題となっている高齢ドライバーの交通事故削減を優先課題として取り組んでいきます。今年は北里大学とともに開発した「有効視野\*計測システム」のプロトタイプを発表や、研究通信#1マスクの色の違いによる視認性評価(輝度・視線解析)、#2社会デザイン研究 高齢ドライバー運転行動意識調査、#3歩行者の服装色に関する調査の発表を行いました。また「ハンドルぐるぐる体操」の効果検証実験を行ったところ、適切な運転操作を行うのに必要な体の柔軟性や筋力を向上させる効果のあることが実証されました。「ハンドルぐるぐる体操」を広く知っていただくため、メタバース上のバーチャルギャラリー「NISSAN CROSSING」にて体験会を実施し、併せてメ

目次	Corporate direction	環境	社会性	ガバナンス	データ集・索引				
社会性に関する方針・考え方	人権	交通安全	ダイバーシティ & インクルージョン	製品安全 および品質	サプライチェーン マネジメント	人財育成	労働慣行	従業員の健康と安全	地域社会への貢献

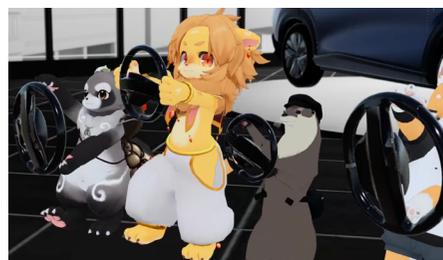
タバス上のインフルエンサーがさまざまなワールドで「ハンドルぐるぐる体操」を実施する動画をYouTubeで公開しました。

これからも引き続き高齢ドライバーに健康で長く安全に運転してもらえらるための交通安全ソリューションを創出、発信していきます。

\* 有効視野とは、必要なものを識別できる範囲をさします



有効視野計測システム



バーチャル「ハンドルぐるぐる体操」

町中心部から、避難解除区域を含む浪江町全域に拡大するほか、買い物支援サービスによる荷物配達を組み合わせた貨客混載の実証実験も実施します。昨年度の実証結果を踏まえ、移動サービスの利便性を向上することで、地方部における暮らしやすいまちづくりに貢献します。さらに同月、日産を含めた3社で、ローカル経済を回す新たな買い物・宅配モデル、「なみえバーチャル商店街サービス」の実証実験も開始しました。VR技術を活用し複数店舗のリアルタイム映像を見ながら商品選択できるシステムと貨客混載の効率的な配送を組み合わせ、簡単で便利な買い物・宅配サービスにより、地域経済の活性化を目指します。

## 新しいモビリティを活用したまちづくりの実証実験

2022年1月、日産を含めた5社は、福島県浪江町にて、オンデマンド配車サービスと、人とモノの移動ニーズをマッチングさせ人流と物流の効率化を検証する、貨客混載の実証実験を開始しました。本実証実験は、2021年



2月に協定締結した「福島県浜通り地域における新しいモビリティを活用したまちづくり連携協定」のもと、2021年11月開始した、「なみえスマートモビリティ」実証実験の第2フェーズとなるものです。配車サービスの対象エリアを